様式3

学 校 番 号

特12

令和3年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	職業的自立及び社会参加を実現する意志と実践力を有し、誇りと思いやりをもって他者と接する人間の育成をめざす。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
成果：本校の学校グランドデザインの趣旨を校内で共通理解するとともに、グランドデザインに基づく学年、分掌での運営計画の作成を行った。取り組みの進捗状況については、毎月の職員会議で各学年や分掌の取組状況を視覚化して提示することで、取組の強弱を把握することができた。 課題:諸行事の見直しや学校、寄宿舎生活の安心・安全の確保など、学年と分掌計画の取組がPDCAサイクルで進捗できるように柔軟なシステム構築を改めて進める。	A ニーズに応じた進路実現	a 生徒、保護者のニーズに合った就労を実現するために、学年・進路指導部の連携を密にして効果的な実習の機会を確保する	
		b 各教科と職業の指導目標を明確にするとともに、相互の一貫性を深める	
		c 職員間で生徒の実態を共有する時間を確保する	
		d 感染防止に取り組みながら就業体験、職場実習の効果的な推進を図る	
	B 心と体の教育の充実	a よりよい人間関係が築けるように校内連携の充実を図り、教育活動全体をとおして社会的スキルやコミュニケーション能力の向上を図る	
		b スムーズな学校生活を送るために、保護者や外部専門家、医療、福祉機関と連携した障がい理解推進の取組を行う	
		c 職業的に自立し、健やかな社会生活を営むために、健康・安全や食・性に関する教育を行う	
		d 落ち着いた学校生活が送れるように情報モラルの向上を図る	
	C 寄宿舎教育の充実	a 卒業後を見据え、生活管理能力を定着させるために学校、寄宿舎、家庭及び関係機関が密に連携し、社会生活に必要なスキルの育成を図る	
		b 安心・安全で充実した生活ができるように、感染防止を踏まえた舎内の活動や行事の推進、工事に伴う対応等を行う	
		c 寄宿舎生活を通して身につく力を明らかにし、集団生活ならではの楽しみを創出し、ホームページ等を活用して、寄宿舎生活の魅力の発信を行う	
		d 個別の対応が必要な生徒に対し、柔軟かつ組織的に検討を行い対応する	
	D 職員組織の活性化	a 未来ビジョン委員会と学年、分掌間の連携の充実を図り、教育課程等の学校課題の見直しを進める	
		b 生徒の実態により適合した教務内規になるよう見直しを進める	
		c 若年者、ミドルリーダーの育成のためにOJTの充実を図る	
		d 職員の専門性向上のために学習・生活指導に関して外部講師を招聘した職員研修を実施する	

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	カリキュラムマネジメントによる教育的ニーズや実態・特性に応じた学習指導の改善を図る。（A-b）（B-a）（D-a）	職業的自立・社会参加に必要な教育内容や教科等で育成すべき資質・能力を整理し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け学習指導の工夫改善を図り、学校教育目標の達成に努める。						
	本校の実情や生徒の実態等を鑑みた教務内規の見直しに努める。（D-b）	高等部設置校の教務内規を参考にするなどして、全面改訂を行う。						
第1学年	対人関係力、規範意識を育成する。（B-a）	他者と協調し、自らの役割を果たす責任感を養い、集団の一員という自覚をもたせるために、学校行事や学年、ホームルーム活動等を通して、他者と関わることの楽しさや集団の中で役割を果たせたという達成感を体験できる場面を設定する。						
	生活管理能力を育成する。（B-c）（C-c）	基本的な生活習慣を身に付けるために、家庭や寄宿舎と連携して、自分のことを自分でする場面を徐々に増やしていく。生徒の実態に応じて個別の支援を行う。						
第2学年	対人関係力、規範意識を育成する。（B-a）	他者を尊重し、自分の役割を遂行できるようにホームルームや各教科の授業など教育活動全体を通して指導方法を工夫する。						
	将来の職業生活について意識を高める。（A-a）	職業的自立に向けた意識が芽生えるように、生徒個々の特性や課題に応じて進路に関する取組やホームルーム活動等を実施する。						
第3学年	社会的スキルやコミュニケーション能力の向上を図り、対人関係力、規範意識を育成する。（B-a、d）	他者と協調し、自らの役割を責任もって果たそうとする態度を養うために学校行事や学年、ホームルーム活動等をとおして様々な経験を積ませる。社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶・返事の指導を徹底する。						
	将来の職業生活について意識を高める。（A-a、d）	将来の職業生活の意識を高めるために生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような職場実習等の進路活動やホームルーム活動を計画・実施する。						

生徒指導部	いじめのない学校づくりを行う。(B-a)	生徒の日頃の行動を観察し状況把握に努め、必要な情報については全職員で共有し生徒指導に活かす。また、学年や特別教育支援部と連携して、生徒の精神的状況や特性の理解に努める。						
		いじめアンケート終了後、気になる生徒との面談や相談週間をとおして、早期発見・対応を心掛け情報を共有し指導の充実を図る。						
	問題行動を起こした生徒へ効果的な指導を行う。(B-a)	生徒の指導後の状況等を把握して必要であれば、他分掌と連携をとりながら、組織的に指導を行う。						
		特別指導となった生徒の指導後の学校生活状況を把握する。必要であれば学年や寄宿舎、他分掌を交えたチーム会議等を行う。						
進路指導部	生徒の希望職種、実態を踏まえた職場実習、就業体験の受け入れ先の確保に努める。(A-a)	3年生の職場実習を推進するとともに、2年生の就業体験の形態や回数の在り方について検討する。また、1年生の進路学習、体験活動の在り方について検討する。						
	コロナ禍における変化する社会情勢に応じ、生徒の利益になる進路活動を、臨機応変に企画・実行していく。(A-d)(D-a)	保護者、職員から職場開拓につながる情報収集を積極的に行い、適宜開拓して生徒の進路実現につながる企業を増やしていく。						
		企業の動向を含めた社会情勢、卒業生の状況等の進路情報を進路指導部内で共有し、他の職員や保護者に正しく情報が伝わる方法を検討する。						
寮務部	安心・安全で充実した生活ができる寄宿舎の運営及び体制づくりを行う。(C-b)	トイレ改修工事に伴う生徒の生活動線や生活環境の変更について、生徒の安全な生活を第一に考え、事務室と連携し適切に対処する。						
		新型コロナウィルスの感染状況を踏まえ、感染拡大防止のための対策を講じ適切に対処する。						
	寄宿舎の魅力の再発見及び創出を行い、発信する。(C-c)	ウイングプラン委員会を中心に他校の情報を取り入れながら、寄宿舎内のルールの緩和や日課、行事の見直しを行い、現代の生活様式等に沿った魅力的な寄宿舎づくりに役立てる。						
		「選ばれる寄宿舎」を目指し、日課や行事などの様子を学校見学やホームページ等で随時紹介する。						
保健部	生徒の健康管理意識を高めさせる。(B-c)	衣服の調整、手洗い・うがい、水分の補給等の指導を定期的に行う。また、保健委員会を中心に手洗いや教室の換気等の呼びかけを行い、生徒の健康管理に関する意識を高めさせる。						
		インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナ等の感染症が流行する時期に生徒に具体的な予防方法を指導する。また、罹患生徒が発生した場合は迅速に対応する。						
	安全な食を提供し、望ましい食習慣を定着させる。(B-c)	偏食せず、自らバランスのとれた食事ができるよう指導を行う。						
		研修会等を利用して、食物アレルギーや減量食等、食事に配慮が必要な生徒の実態を全職員で把握し、対処する。						
研修部	生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せる学習指導についての研修を推進するとともに、自立活動の効果的な指導内容・方法についての研究を行う。	自立活動の理論研究を推進することで、ねらいや内容の位置付けを明確にした授業の在り方についての研究を進める。						
		校外における研修会について、掲示板等を活用し周知徹底する。						
	研修や実習等をとおして、高い専門性を有する指導者の育成を図る。(D-c、d)	若年教員研修(1年目、2年目、3年目)において、教科主任等と連携を図り、有益な研究授業が実施できるよう調整する。						
特別支援教育部	職員の専門性の向上を図る。(D-d)	様々な教育的ニーズに対応できるように、関係分掌と連携のもと専門研修を計画し、実施する。						
	校内支援体制の充実を図る。(A-c)(C-a)	校内生徒の支援に関する相談を受け、担当者と共に適切な支援の在り方を探っていく。また、学期に1度の支援会議、必要に応じたケース会議を行い、学年、分掌との連携を推進するとともに、校内における関係者会議と連動した校内生徒支援体制の強化を行う。						
企画庶務部	PTA役員と連携しPTA活動を推進する。(B-b)	PTA役員を中心として、文化祭、研修会などの行事においてPTAの取り組みを推進する。						
	学校ホームページのコンテンツを充実させる。(B-b)	学校ホームページの情報を最新にし、新しいコンテンツを検討する。						
		日ごろの教育活動や学校行事の写真を定期的に掲示する。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見